

2025 年度 卒業論文

指導教員 川野 幸男

声なき者は誰が守るのか——外国人収容制度に
おける裁量・排除・沈黙

大東文化大学 社会学部 社会学科

22191184

張子涵

要旨

本研究は、日本の入管収容制度において声が届かない構造がどのように生じるのかを明らかにし、制度的排除を是正するための支援体制および制度運用のあり方を検討することを目的とする。背景として、日本社会では外国人住民が増加する一方で、制度的・言語的ハードルにより必要な支援にアクセスできない事例が報告されている。

とりわけ、2021年に名古屋出入国在留管理局で死亡したスリランカ人女性ウィシュマ・サンダマリ氏の事例は、制度内での情報遮断・判断裁量・医療アクセス不足といった構造的課題を象徴する事例である。本研究では、ガルトゥングの構造的暴力概念およびインターセクショナリティの視点を理論的枠組みとして用い、制度に埋め込まれた不平等のメカニズムを分析する。

さらに、市民団体や行政書士等による支援実践の意義と限界を検討し、制度的排除がどのように再生産されるのかを考察する。本研究は、収容制度および関連支援の課題を多角的に捉えることで、外国人が安心して支援にアクセスできる社会の実現に向けた基礎的知見を提示するものである。